

R2経営目標 事務局説明にかかる委員意見

資料3

	法人名	委員意見	法人回答
6 月 2 4 日	(公財)千里ラ イフサイエンス 振興財団	「効率的・効果的な資金運用」について、外貨で運用するということはそれだけリスクが当然あつてしかるべき。豪ドルは変動しやすいということがわかっていの中で中期経営計画を立てているのであれば、為替が不利に触れても目標値を中期経営計画を目標とすべき。	<p>○中期経営計画策定以降、元本保証を前提に積極的な資金運用を行っており、平成29年度から令和元年度までは、中期経営計画の目標額9,000万円を上回る収入を確保しておりますが、毎年度の目標設定は、中期経営計画の目標を前提に、その時々的情勢を踏まえて設定するものであることから、資金運用についても、現下のコロナ等の経済情勢を踏まえたうえでチャレンジングな目標額を設定すべきと考えております。</p> <p>○令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症の拡大による世界経済の後退により、新聞記事にもあるとおり、金融機関は景気悪化を見据えて融資が焦げ付くリスクを厳しく見積もる必要が生じ、貸倒引当金の積み増しにより減益となっています(5大銀行グループは不良債権処理費用を前期比の1.9倍の約1.2兆円と計上)。その結果、契約上の高い利回りを保証することが金融機関の経営を圧迫することからコール(高い利回りを保証することを止め、金融機関から利回り契約を打ち切って早期償還する)が複数発生し、中期経営計画の目標額達成がすでに困難となっています。</p> <p>○そのため、「効率的・効果的な資金運用」については、当初8,500万円を目標値として審議いただいたところですが、目標値を8,000万円に修正させていただきたいと考えております。</p>